

資料 1

令和3年1月14日
社会福祉法人
練馬区社会福祉事業団

令和元年度民営化特別養護老人ホーム等の運営状況について

- 1 法人全体 p 1
- 2 田 柄 特別養護老人ホーム等 p 2 ~ 6
- 3 関 町 特別養護老人ホーム等 p 7 ~ 11
- 4 富士見台 特別養護老人ホーム等 p 12 ~ 17
- 5 大 泉 特別養護老人ホーム等 p 18 ~ 23

1 法人全体

施設運営上の課題と取組の方向性

令和元年度～令和2年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 新型コロナウイルス感染症防止への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、令和2年2月下旬から本部に対策本部を設置し、全事業の発熱者や体調不良者の情報集約や衛生用品を確保し感染防止対策を指示するなど組織的に対応しています。

イ 新型コロナウイルス感染症による経営への影響

デイサービスセンターでは、新型コロナウイルス感染症により地域で休業や業務を縮小したデイサービスからお客様の受け入れを行いました。お客様の利用控えが響き減収となりました。緊急事態宣言解除後は、利用率も徐々に回復していますが、事業所によって差があります。

ウ 経営改革への取組

令和元年10月に経営改革担当課を新設しました。令和2年度より経営改革本部会議を設置し、各事業経営の改善、事業拡大、大泉ケアハウスの民営化など経営上の様々な課題について検討を重ね解決に向けて取り組んでいます。

エ 人材確保への取組

採用活動の改善を図りました。はつらつセンター大泉を会場とした就職説明会の開催、就活サイトの効果的な活用、実習生への丁寧な対応などを行った結果、令和2年11月末での内定者は12名と昨年度を大きく上回っています。

令和2年度下半期～令和3年度の取組予定

ア 第3期中期計画の策定

平成28年度に策定した第2期中期計画が令和2年度で計画期間が終了します。これを受け、この間の事業団を取り巻く状況変化や事業の進捗等を踏まえ、今後5年間の重点課題や具体的な取り組みを盛り込んだ計画として、第3期中期計画を策定中です。

イ 令和3年度介護報酬改定への対応

介護報酬改定への準備として、介護給付費分科会の資料等で情報収集を行っています。今回も厳しい状況が予測されるため、新たに新設される各種加算等の取得についての確に対応します。

ウ コロナ禍での事業運営

今年度に入り新型コロナウイルス感染症の発生が3件ありました。その内2件は介護事業所での発生となり、経営に大きな影響を与えました。今後も事業への影響を最小限に抑えるために、感染防止対策を徹底し濃厚接触者を出さない介護サービスを提供します。

エ 大泉ケアハウス民営化および特別養護老人ホーム等の建物譲渡への対応

令和3年4月1日の大泉ケアハウスの民営化および建物譲渡について、進行計画案に沿って的確に対応します。特に大泉ケアハウスの機能転換に向けた利用者支援については、個々の入居者の状況に応じた支援を行います。

オ 共生型障害福祉サービス等の実施に向けた検討

令和元年度下半期から練馬区障害施策推進課と共生型障害福祉サービス検討会議を行っています。その中で、共生型生活介護および短期入所（特養での空きベット利用）の実施について具体的な検討を開始しました。

2 田柄特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	100人	366日	36,600人
ショート	8人	366日	2,928人
デイ	40人	310日	12,400人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	36人	82人	119人	433人	512人	1,182人	4.1
ショート	0人	0人	64人	112人	196人	106人	111人	589人	3.1
デイ	26人	42人	327人	412人	298人	120人	94人	1,319人	2.4

平均要介護度 = 要介護1～5利用者の介護度合計 / 要介護1～5利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	35,257人	96.3%
ショート	3,364人	114.9%
デイ	10,742人	86.6%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	19人	22人	3人
デイ	33人	31人	2人

施設運営状況
苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	令和元年 8月	午前中に面会に来られた娘様より、「朝の食事の食べカスが口の中に残っていた。詰まって死んでしまうこともあるから。」との申し出があった。	食事時の飲み込み確認と、食後の口腔ケアを徹底することを説明し、フロア職員に周知した。
特養	令和元年 12月	面会に来られた奥様より、「以前半袖の肌着を片付けただが、また半袖の衣類を着ている」との申し出があった。	ご家族が衣類を片付けてくださった後に、洗濯から戻ってきた衣類の可能性があることを説明した。冬場は長袖の肌着を着用していただくことを、フロア内職員に周知した。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和元年 4月	昼食後、食堂にて席から立ち上がった際に椅子ごと左側臥位に転倒された。整形外科に受診し、レントゲン撮影し、左上腕骨頸部骨折の診断となった。保存療法となり、2か月後に通院終了となった。	受傷される前は歩行器を使用されていたが、歩行不安定なため車いす使用に変更した。ベッドで臥床される際にはセンサーコールを使用することにした。
特 養	令和元年 9月	夕食後、ご本人が居室に向かって歩かれたため、介護士がご本人の前に立って声かけした。その際に職員を振り払うように廊下に歩き出しバランスを崩され、支えきれずに床に膝を着き転倒された。顎の辺りから出血しており、通院して裂傷部を縫合し施設へ戻られた。	認知症によりコミュニケーションが困難になってきているため、ご本人の行動は可能な限り制止せず、気持ちが落ち着くまで同行することとした。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養	令和元年度	田柄特養を会場に月1回「オレンジカフェたがら」を開催し、年間延べ771名の参加がありました。感染症予防対策のため3月以降は中止しましたが、令和2年度は10月から縮小して再開しています。
特 養	令和元年度	地域の学校や、各種団体に対して講師として職員を派遣し、「介護教室」「車いす体験」「高齢者疑似体験」「福祉講座」など13回、延べ2,500人が受講しました。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	令和元年度	看護師や施設内委員会の職員が講師を務める施設内研修を36テーマ開催し、延べ861人の参加がありました。
特 養	令和元年度	法人の職層別研修、課題別研修、職種別研修のほか、委員会主催の研修にも職員を参加させました。また外部研修へは、17名を参加させました

施設運営上の課題と取組の方向性

令和元年度～令和2年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 感染症対策

令和元年度終盤からコロナウイルス感染症予防対策は、施設運営で最も重要な課題となりました。この中で、家族の面会制限や、懇談会の中止など緊急事態宣言下では、施設への立ち入りを大きく制限することになりました。しかし、看取り期のお客様に関しては、ガウン着用の上で最期の対面が叶うよう支援しています。

緊急事態宣言の終了とともに、面会、家族との会議および研修は感染防止対策をとって再開し、段階的に解除への取り組みを進めています。

イ 業務の見直し

感染症拡大を防止する新たな取り組みが日常の業務に加わりました。お客様の生活空間を区切りながら職員間でも可能な限り接点を減らしていけるよう、区域分けとグループ化に取り組みました。すべての業務体制を見直し、少ない人員でも円滑に業務が行えるよう改善しました。

ウ サービスの質の向上

基本的なサービスの質の向上を目指すことは、感染症の対策を講じながらも大切な視点です。ケアアドバイザー事業についても、施設内への立ち入りができない中、6月より相談事業や記録等を点検し助言をいただく形で再開しました。8月よりフロアへの立ち入りも再開し、専門家が第三者の目でケアを点検することで、日常のケアの質や接遇の向上につなげています。

令和2年度下半期～令和3年度の取組予定

ア 感染症対策

感染症予防対策は、現在も最重要課題であることは変わりませんが、日常を取り戻すための取り組みも進めています。面会は、まだビニール越しに行っていますが、現在はWEB面会(テレビ電話で面会)していただく場面も増えました。また、看取り期にある方については、現在もガウン着用の上、居室で面会していただいています。

今後は、カンファレンスや、体調不良時の面会などにもWEB面会を活用していくなど、家族との新しいかわり方が増えていくものと思われれます。

イ 業務の見直し

感染症予防対策の中で、お客様も職員も多くの制約の中で生活しています。距離を保つことと、身近に寄り添うケアの矛盾の中で、可能な限り寄り添いながらも安全を守るために、面会用のタブレットをはじめ、コミュニケーション用のスピーカー、居室での安全を遠隔で判断できる見守りセンサーの導入など、業務の見直しに取り組んでいます。

ウ サービスの質の向上

基本的なサービスの質の向上を目指すために、ケアアドバイザー事業の活用と、内部点検の実施などに継続して取り組みます。

エ 地域貢献

10月から「オレンジカフェたがら」を再開しましたが、小規模の対象者を限定したものとなりました。コロナ禍の中での事業のあり方を見直しながら、地域の学校への「福祉教育活動」などにも取り組みを進めていきます。

配置人員数【令和2年3月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	41人	8人	47.0人	5人	5人	8.5人	5人	15人	80人
		(33人)			(3人)					
デイ	1	4人	11人	11.0人	1人	2人	1.6人	1人	10人	30人
		(6人)			(1人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	44人	3人	0人
	非常勤	19人	3人	3人
看護師	常勤	6人	2人	2人
	非常勤	6人	2人	1人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成31年4月1日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成31年4月2日から令和元年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

3 関町特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	70人	366日	25,620人
ショート	10人	366日	3,660人
デイ	40人	310日	12,400人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	0人	30人	135人	295人	360人	820人	4.2
ショート	0人	1人	34人	110人	149人	118人	98人	510人	3.3
デイ	21人	41人	334人	450人	189人	198人	63人	1,296人	2.4

平均要介護度 = 要介護 1 ~ 5 利用者の介護度合計 / 要介護 1 ~ 5 利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	24,551人	95.8%
ショート	3,569人	103.0%
デイ	10,708人	86.4%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	18人	18人	0人
デイ	21人	31人	10人

施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
デイ	令和2年 1月	「今日2号車を運転していたのは新人ドライバーなのか、自分の車の前に置いていた3段のブロックとコーンが崩れていた。気を付けてくれ。」と非通知通話で匿名の方より注意される。	確かに2号車は当該箇所を通行していたが、ドライブレコーダーで確認したところ、通過時には既に3段ブロックがずれていた。また、衝突した形跡もない。送迎員には、区民は注目しており、改めて丁寧な運転をするよう指導した。
特養	令和2年 6月	「今日から植栽剪定が始まったが、以前に虫やムカデが逃げ込んできたので、逃げないようにしてほしい。」と、近隣住民から電話があった。	自宅に伺い謝罪し、敷地境界線に殺虫剤を散布し、申出人の土地に侵入しづらいようにすることを伝え、直ちに殺虫剤を散布した。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	令和2年 1月	午前2時に居室から杖が床に倒れる音がし入室すると、居室内トイレ前に転倒していた。「トイレに行こうとして転んだ。」とのこと。	受診し、CT検査実施し、左座骨にひび有りと診断される。入院せず施設で静養となる。居室内は介助歩行し、居室から出る場合は車いすで移動している。ナースコールを押すように伝えているが、一人でトイレに行ってしまうことがある。ナースコールを探さなくても見える場所に設置する。ナースコールが目立つ様に赤くテープを張る。ナースコールを促す貼り紙を掲示する。以上の対応をとって様子を見る。
ショートステイ	令和2年 9月	浴室で介護士が洗身介助をしている最中に、排便があり手すりに捕まって立位をとっていただく。洗浄をしている最中にバランスを崩し、支えきれずに右側臥位に転倒した。右後頭部に直径3cm、高さ2cmの腫瘤、右肘・右手首・左手首に各直径1cmの表皮剥離を確認した。	受診し頭部CT検査実施し、頭蓋骨、脳に異常はなかった。右腕、腰部X線検査し骨折もなかった。立位不安定であることは認識していたが、排便があり立位時間が長くなってしまった。今後は、立位時間が長くなる場合は、2人介助で行うか、一度座っていただき体制を整えてから洗身を行う。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養	通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域小・中学校へ福祉体験授業の講師派遣や地域の各種団体への介護事業への啓発活動へ講師派遣。令和2年2月に実施し次回は令和3年3月に実施予定 ・新型コロナの関係で町会との消防フェスティバルが中止となったが、令和2年10月に少人数で3密を避けながら簡易トイレの作成、消防の豆知識の講演を実施した。
特 養	通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会福祉法人施設（介護事業所、児童・保育施設、障害者施設など）「関町・立野法人ネット」の世話人施設として参画し、新型コロナ感染予防について最新情報を共有し自施設の感染症対策に不備がないよう確認しあっている。また、令和3年1月に、「新しい生活様式」を取り入れた各施設の事業運営の工夫点をまとめ、法人ネット加入施設に配布する予定。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	通 年	<p>令和2年3月から7月頃までは、新型コロナ感染拡大防止のため、施設内研修、外部研修の参加を控えた。法人が実施する研修以外に、内部研修（WEB含む）を283回実施、延べ517人が参加。外部研修（WEB含む）には、9回、延べ111人参加。さらに外部への講師派遣として、1回、延べ2人を派遣した。</p>
デ イ	通 年	<p>令和2年3月から7月頃までは、新型コロナ対策のため、施設内研修、外部研修の参加を控えた。法人が実施する研修以外に、内部研修を13回実施、延べ95人が参加。なお、外部から講師派遣として依頼を受け、1回、1人を派遣した。</p>

配置人員数【令和2年3月末現在】

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	32人	8人	37.7人	5人	3人	5.9人	4人	7人	60人
		(24人)			(3人)					
デイ	1	5人	6人	8.8人	1人	1人	1.7人	2人	10人	26人
		(6人)			(1人)					

単位：人（法定配置数）

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	38人	1人	1人
	非常勤	13人	3人	2人
看護師	常勤	5人	1人	0人
	非常勤	4人	1人	0人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成31年4月1日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成31年4月2日から令和元年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

施設運営上の課題と取組の方向性

令和元年度～令和2年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 経営基盤の安定に向けた取組

関町拠点として管理運営経営会議を設置し、併設事業と一体で経営課題を共有化するなど改善に努めました。新型コロナウイルス感染予防のために、マスクや消毒液等の衛生用品を拠点として一括管理し、不足になることもなく、感染症対策に取り組んでいます。省エネ化工事を実施し、光熱水費の削減にも取り組み、一定の成果をあげています。ただし、特養単体でみると、構造的な赤字は継続しています。利用率の維持向上は大前提としても、効率的な勤務体制や増床への取り組みなど、根本的な構造改革の必要性があります。

イ サービスの質の向上への取組

「ケアアドバイザー事業」として、外部からの専門家による施設の介護サービスの点検を毎月実施しています。点検の後に職員との意見交換を実施し、課題の確認と進捗の管理に取り組んでいます。

また、職員研修については、WEB研修を活用しながら内外への研修の参加と伝達研修で、職員の資質を高めるための取り組みを継続しています。感染症の研修も、通常の研修の他に、全職員が東京都の新型コロナ感染症対策の動画を視聴しました。また、練馬区の事業である「福祉施設感染予防アドバイザー事業」を活用し助言等をいただき感染予防対策を徹底しました。

ウ 地域との連携の強化と社会貢献について

地域の防災会と連携した「地域施設連携防災ネットワーク」の世話人施設として参画しています。今年は職員に対して簡易トイレ作成と消防豆知識の講演をしていただき連携を図っています。

また、介護や福祉に関心を持っていただくための取り組みも、重要な役割だと認識しています。毎年、地域の小・中学校等と連携して、福祉体験学習や総合学習の時間で車いす体験や高齢者疑似体験教室を実施していますが、今年は延期または中止となっています。令和3年3月には中学校で行う予定になっています。

令和2年度下半期～令和3年度の取組予定

ア 安定した経営のため、利用率の確保とともに、業務内容の見直しを行い効率的な運営に取り組めます。

イ ケアアドバイザー事業に基づくサービスの改善と、要点をコンパクトにまとめた研修方式「10分研修」やWEB研修を活用し、基本技術と知識の向上を目指し、サービスの質の向上に取り組めます。

ウ 介護人材の確保が困難な中で、離職防止への取り組み、地域への啓発活動の強化、家族との連携の強化に継続して取り組めます。

エ コロナ禍の中でも地域との関係を深め、地域福祉の拠点となるよう、地域の2つの社会福祉法人ネットの活動に取り組むとともに、施設開放、専門職人材の講師等への派遣、地域の安全性の向上への取り組みなどを通じて、地域連携を強化していきます。

4 富士見台特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	50人	366日	18,300人
ショート	6人	366日	2,196人
デイ	40人	310日	12,400人
認知症デイ	12人	310日	3,720人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	1人	11人	73人	192人	317人	594人	4.4
ショート	0人	4人	27人	41人	34人	98人	47人	251人	3.3
デイ	19人	26人	352人	398人	176人	82人	103人	1,156人	2.3
認知症デイ	0人	0人	5人	34人	49人	74人	91人	253人	3.8

平均要介護度 = 要介護 1 ~ 5 利用者の介護度合計 / 要介護 1 ~ 5 利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	18,094人	98.9%
ショート	2,221人	101.1%
デイ	10,161人	81.9%
認知症デイ	2,426人	65.2%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	7人	7人	0人
デイ	43人	42人	1人
認知症 デイ	13人	9人	4人

施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	令和2年 5月	「面会制限がいつ解除になるのか確認したい。施設の回答は『理事長の判断による』だった。そもそもインフルエンザと同じようなものなのに面会制限を行う必要があったのか。」と本部へ問い合わせがある。面会制限に不満が募っている様子がうかがえる。	本部担当者より、緊急事態宣言解除後の6月8日から感染対策を講じた上で面会の再開を準備していることを伝え、新型の感染症であり、わからないことも多いため、早めの安全策をとったことを伝える。再開する面会体制は予約受付があり、すぐには開始できない、周知の手紙を郵送したことを伝えて、ご理解を得る。
デイ	令和元年 7月	お客様の娘様から次のご意見がある。「送迎時、マンション入口に3台の車が停車していた。出車の邪魔をするなど伝えられているのに明らかに車を遮る動きをした。駐車方法を送迎員に伝えても拒否された。富士見台デイには行かない。前にも同じことがあり言い方が酷く頭にきたが、預けている母への危害を恐れ言わなかった。臨機応変な対応をしてほしい。よく考えてほしい。」	お客様が到着時に添乗員から苦情の報告があり娘様へ電話をし対応について謝罪する。帰りの送迎は相談員が添乗する。娘様から駐車的位置や方法に関していくつかの依頼事を聞く。今後は娘様の指示を受けつつ周りの状況をみてより丁寧に対応していくこととする。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
ショートステイ	令和2年3月	おやつのため食堂で過ごされている。他の方を介助中の職員が後方の音に振向くとうつ伏せに倒れているのを発見する。家族同行で受診し、右肩関節脱臼骨折と診断される。	バストバンドを固定し車いす対応に変更する。家族から落ち着けない時間帯を聴き、施設での過ごし方や場所を工夫する。その後も毎月ショートステイを利用されている。
デイ	令和元年12月	(行方不明) 正午過ぎに職員が、トイレに付き添いA様が便器に座られるのを確認しフロアに戻る。5分後にトイレに戻るとA様がいらない。周辺検索するも発見できず管理者に報告あり。建物内外の検索開始。外出中の介護者に連絡報告し自宅待機を依頼する。法人の検索マニュアルに沿った対応をする。介護者の了解を得て警察へ捜索願を届け出る。南田中2でA様らしい方を見たとの職員の情報があり検索地域を限定する。15時に警察から大泉学園駅前交番で保護されたとの連絡が入り介護者に連絡し迎えに行く。外傷等なく自宅に送り介護者に経緯説明と謝罪をする。	A様の今後の対応を次のようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症状があり健脚なため、介護職員、看護職員、相談員等の多職種連携で所在を確認する。 ・一般デイの利用であるため、症状進行に伴い認知症対応型デイへの移行を提案する。 ・認知症状について担当ケアマネジャーや関係機関と情報を共有する。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養 デイ	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・従前からの区受託事業「筋力向上トレーニング」の修了者の自主グループに週2日毎1時間、シニア貯筋体操に月4回1時間リハビリ室を開放した。また、地域ボランティアの手芸・ナンプレの定期的活動に施設を開放した他、多くのボランティアの施設内活動の支援を継続した。 ・高齢者支え合いサポーター育成研修では、施設実習、区内施設へのコーディネイトを担当した。「福朗会」による街かどケアカフェ「たまり場ふくろう」を週2回開催し、地域の方、ボランティア、施設入所者、家族等の交流の場になった。(現在は感染予防のため中断)
特養	通年	<p>施設長は、東京都の高齢者権利擁護推進事業、「暮らしの場における看取り支援事業」「介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修事業」に携わった。令和元年5月朝日新聞に事故に関する法人の方針、当施設の取り組みが掲載された。職員は「大学で介護福祉を学ぶこと」、区内小・中学校での「総合学習プログラム福祉体験授業」等へ出講した。研修依頼、施設見学は日程調整の上、できる限り対応した。実習は、介護士、社会福祉専攻大学生、看護大学生、後見人養成研修受講者、教職員、練馬区パワーアップカレッジ受講生、人事院公務員研修等を受け入れた。</p>

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	<p>令和元年度は練馬介護人材育成・研修センターでの研修を延48名、外部研修を延18名受講した。施設内では17のテーマの研修を企画・開催して延298名が参加した。福祉用具使用方法とケア技術を熟練者によるチェックを継続し、介護サービスの質向上、業務の標準化に努め、運営基準上の必要研修を網羅した。</p>
特養	通年	<p>認知症ケアについては、法人の「グランドデザイン」を実践し、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用した。また、センター方式をケアプランに反映させる研修、施設環境づくり研修、お客様の困りごとを解決する事例検討会研修、認知症ケア技術「ユマニチュード・メソッド」の学習会などを開催した。</p>

配置人員数【令和2年3月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	21人	4人	23.4人	5人	2人	5.2人	3人	6人	42人
		(16人)			(3人)					
デイ	1	8人	11人	15.4人	1人	3人	2.2人	2人	15人	41人
		(8人(認知症2人))			(1人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	30人	1人	4人
	非常勤	16人	0人	1人
看護師	常勤	5人	0人	0人
	非常勤	6人	0人	1人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成31年4月1日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成31年4月2日から令和元年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(3) 施設運営上の課題と取組の方向性

令和元年度～令和2年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 特別養護老人ホーム

- ・令和元年度は、年間平均介護度が4.4、利用率が98.9%、サービス活動増減差額がマイナス21,269,819円でした。
- ・令和元年度以降も介護報酬の各種加算要件の整備と実施に努め、たんの吸引等医療行為の認定証保有職員の配置で夜勤職員配置加算を維持しました。
- ・施設での終末期ケアについては、PDCAサイクルによる看取り介護の体制を維持し多職種が連携して繰り返しご本人とご家族の意向を確認するなど、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」のACP(アドバンス・ケア・プランニング)を実践しました。

イ ショートステイ

- ・令和元年度は、年間平均介護度が3.3、利用率が101.14%、サービス活動増減差額が6,343,040円でした。医療ニーズの高い方も訪問診療や訪問看護と連携し積極的に受け入れました。
- ・利用2か月前の申込調整でほぼ100%の予約を受け、予約後のキャンセルについては、キャンセル待ちの方や緊急ショート等を割り当てることで、100%以上の稼働率を達成しました。
- ・看護職員が送迎車に添乗して、ご自宅でのご心身や服薬の状況を確認したり、施設での状況をご家族に説明したりすることで、チームケアを強化しました。

令和2年度下半期～令和3年度取組予定

ア 特養の適正な運営の維持

- ・感染症予防対策を徹底し、事業運営への影響を最小限に留めます。
- ・入所時に施設生活について十分に説明した上で、看取りケアPDCAにより人権を尊重したケアを提供し、最期まで施設での穏やかな生活を支援します。
- ・入所を待機している方には事前面接や施設見学をしていただき早期入所につなげ、空床期間を短縮します。
- ・夜勤体制等を見直し、人材確保と多様な働き方への対応を検討します。

イ ショートステイ新規利用者の受け入れとサービスの質の向上

- ・ご家族やケアマネジャーとの連携による情報の共有で、スムーズな新規利用者の受け入れを実現します。
- ・看護職員の添乗する送迎、記録の充実、プログラム活動の充実を継続し、満足度の高いご利用につなげます。

ウ 建物・設備の保全管理と防災対策

- ・建物と設備を適切に管理し、お客様の生活環境と職員の労働環境とを保全します。
- ・BCPに沿った訓練の実施により職員の意識化を維持し、災害用備蓄品の確保・管理に努めます。

エ 地域貢献の展開

- ・地域への施設開放を継続し、感染症の状況をみて「街かどケアカフェ」を再開します。

5 大泉特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	120人	366日	43,920人
ショート	15人	366日	5,490人
デイ	40人	310日	12,400人
認知症デイ	12人	310日	3,720人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	0人	24人	186人	573人	640人	1,423人	4.3
ショート	0人	0人	55人	132人	195人	181人	117人	680人	3.3
デイ	0人	2人	276人	285人	348人	128人	31人	1,070人	2.4
認知症デイ	0人	0人	25人	43人	52人	73人	53人	246人	3.3

平均要介護度 = 要介護1～5利用者の介護度合計 / 要介護1～5利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	42,521人	96.8%
ショート	5,069人	92.3%
デイ	9,406人	75.9%
認知症デイ	2,177人	58.5%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	37 人	36 人	1 人
デイ	41 人	29 人	12 人
認知症 デイ	10 人	13 人	3 人

施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和元年 6月	母は冷え性でエアコンが良く効いていて寒く感じる日もあると思うので布団をかけてほしい。	冷え性という事を認識し、本人の体調管理を継続していく。
特 養	令和元年 8月	正面の門から自転車が急に飛び出してきて危険であった。職員であれば厳重に注意してほしい。施設としてどのように対応するのか報告が欲しい。	自転車を運転していたのは、職員でなくご家族であった。門5か所に注意喚起のポスターを貼り、職員は職員玄関から出入りするよう周知した。申出人に謝罪と施設の対応について説明した。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	令和元年 12月	ベッド横に左側臥位で転倒していた。右の額に3センチの傷があり受診する。頭部 CT 検査は異常なかったが、右鎖骨骨折が判明した。	通常ベッドから超低床ベッドへ変更した。ベッドサイドにセンサー設置し行動の早期発見に努める。移動する際は両手介助歩行とする。全盲に配慮し、ナースコールをベッド上で手に持っていただくようにした。
特 養	令和2年 3月	食堂で大きな音が聞こえ駆け付けると本人が椅子を後ろにずり落ちをされていた。レントゲン撮影の結果、第4腰椎圧迫骨折が判明した。骨折は古いものかもしれないが痛がる部分と一致している。高齢でもあり骨折しやすいもろい身体であるとの診断であった。	本人の意向もあり、朝6時頃、見守りが手薄になる時間帯に離床された。普段は7時過ぎに起床するので、普段と同じペースで過ごしていただくことを検討した。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養 デイ	通年	地域のボランティア団体に1階のデイ食堂を貸し出し、「虹のカフェ大泉」を毎週水曜日の午後開催し、地域の子供から高齢者まで多世代が集う場所として定着しているが、3月以降は中止している。 「高齢者支え合いサポーター育成事業」に取り組み、実習施設としての受講生の受け入れとコーディネーターとしての役割を担っている。
特養 デイ	通年	「練馬区学習支援事業(中3勉強会)」として、1階デイ食堂を貸し出し、学習支場所の提供を継続しているが、2月以降は中止している。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	年間計画に沿って、職員の資質向上を目指し、法人や研修センター主催の研修26回(延べ83名)、外部研修10回(延べ38名)実施した。人権・介護技術・感染症予防・認知症ケアの向上等を目指した内部研修を、19回(延べ548名)実施した。
デイ	通年	年間計画に沿って、職員の資質向上を目指し、法人や研修センター主催の研修10回(延べ17名)、外部研修2回(延べ2名)実施した。人権・介護技術・感染症予防・認知症ケアの向上等を目指した内部研修を、11回(延べ194名)実施した。

配置人員数【令和2年3月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	52人	7人	59.0人	6人	5人	7.2人	7人	16人	94人
		(41人)			(4人)					
デイ	1	7人	12人	15.1人	1人	2人	1.8人	3人	16人	42人
		(8人(認知症2人))			(1人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	57人	4人	3人
	非常勤	20人	2人	3人
看護師	常勤	7人	1人	2人
	非常勤	5人	3人	1人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成31年4月1日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成31年4月2日から令和元年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(3) 施設運営上の課題と取組の方向性

令和元年度～令和2年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 事業基盤の安定の取組

・令和元年度は、特養利用率 96.8%、ショートステイ利用率 92.3%、合算で 96.3%でした。年度初めの2か月間、角化型疥癬発症によりショートステイを休止、特養の新規利用者受入れも控えました。更に、年度末は新型コロナウイルス感染症の影響でショートステイのキャンセルが増え、利用率が低下しました。

・令和2年2月～7月にかけて、「国土交通省 既存建築物省エネ化推進事業」を活用し、空調機器入替、照明のLED化、ボイラー新規交換等の工事を実施しました。

イ サービス向上の取組

・外部ケアアドバイザーの評価を継続して定期的に受け、日々のケアの質の向上と職員の意識向上に取り組みました。

・介護技術点検や情報共有の仕組みを見直し、風通しの良いチーム作りに取り組み、不適切なケアを防止に努めました。

ウ 施設建物の保全・管理の取組

・築21年となり、建物、設備、備品等の劣化に伴う修繕費等の増加が顕著となりましたが、緊急性のある工事や、設備等の故障に早めの対応を行い、事業に支障をきたさないよう努めました。

エ 地域連携、地域貢献への取組

・施設開放事業を継続し、練馬区学習支援事業の勉強会は年71回開催、まちかどケアカフェ提携施設の「虹のカフェ大泉」は年間40回開催、週1回定期開催し、毎回平均38名の利用実績があり、多世代の交流場所として定着しています。しかし、2月から感染症予防対策として休止しています。

令和2年度下半期～令和3年度の取組予定

ア 安定した経営への取組

- ・引き続き、特養利用率 98%とショートステイの利用率 98%を目指します。
- ・施設建物および設備の老朽化対策として、計画的な修繕と保全に努めていきます。

イ サービス向上の取組

- ・ケアアドバイザー事業を継続して、お客様の生活環境の整備や人権および接遇に配慮したケアの提供を目指します。
- ・新型コロナウイルス感染症の発症予防と感染拡大防止に取り組み、お客様の安心・安全を守ります。

ウ 人材定着と離職防止の取組

- ・職員の働きやすさを意識した職場環境づくりを継続していきます。
- ・介護ロボットやICT機器を活用した業務負担軽減に取り組みます。

エ 地域連携、社会貢献への取組

- ・施設開放事業としての「虹のカフェ大泉」「練馬区学習支援事業」は、継続支援していきます。
- ・隣接の大泉福祉作業所との勉強会や防災訓練等を実施し協力関係を深めます。
- ・大泉地域の社会福祉法人が加入している「大泉法人ネット」に施設全体で関わり、「農福連携」「職業体験」に取り組んでいきます。